

平成 23 年 11 月 1 日

各 位

会社名 株式会社ウェッジホールディングス
代表者名 代表取締役社長 田代 宗雄
(コード 2388 大証 J A S D A Q 市場)
問合せ先 執行役員経営管理本部長 浅野 樹美
(TEL 03 - 6225 - 2207)

タイ洪水被害の当社グループへの影響について (第 7 報)

当社の連結子会社である Group Lease PCL (以下、G L) における、このたびのタイ国内での洪水発生に伴う影響に関しまして、平成 23 年 11 月 1 日正午の時点で確認されております事項をご報告いたします。

記

1. G L 本社近辺について

G L 本社は本日も通常通り営業いたしました。本社近辺につきましては、通常通りの営業を行うことのできる状況です。

2. G L アユタヤ支店近辺について

G L のアユタヤ支店の状況につきましては、すでに平成 23 年 10 月 20 日にお知らせいたしておりますように営業停止の状況にあります。同支店自体の人的・物的被害はないことを確認しております。

新しい報告が入った場合にはお知らせいたします。

3. G L その他の支店

タイ最大の工業地帯であります、イースタンシーボード地域 3 支店、タイ東北地方のナコンラチャシマ県 1 支店につきましては、洪水の影響はなく、今後とも影響を受ける可能性は低いと現時点では判断しております。

4. バンコクの状況について

バンコク全体において、様々な地区において一進一退の状況が続いております。しかしながら昨日より、浸水が起ったというニュースに加え、排水が始まった、あるいは、いかにして排水するかという話題が増えつつあります。また、北部、東北部などにおいては既に乾季に入ったとのことで、降雨が減少し、貯水ダム等が放出する水の量も減らされてから長くなりました。

左はチャオプラヤ河に近く、1M ほど浸水していた場所、急造の土堤に守られて右側には浸水しなかった。本日は水が引いている。



上流であるタイ北部から下降してきました水の増加はここまでとの観測と、大潮も過ぎ、潮位も下がりつつあることから、洪水の山場を越えたという見方が現地においては支配的となっております。

今後とも次のような課題が山積みしております。

- ① 水がなくなったわけではなく、水が減少する場所が出る一方で、増水する場所も新たに発生すると考えられる。
- ② 昨日指摘いたしました、防水壁や土嚢、土堤などが、長期間、水圧に耐え続けているために、それ自身が崩落する、基礎部分がもろくなるなどして浸水が広がる可能性がある。
- ③ 浸水地域の汚水による住民への健康被害が拡大する恐れがある。
- ④ 水源の水質悪化による水道水の質が悪化する恐れがある。
- ⑤ 洪水対策のために積まれた土嚢、土堤の処理方法
- ⑥ 排水の遂行方法(特に一旦水が浸入した標高の低い場所には長期間水が滞留することが予想される。)

昨日は水道水源に住民が汚染水を排出したというニュースをご紹介しましたが、今後も、排水の進行具合などを巡る住民と公的機関、住民同士などの私権の衝突などが起こりえます。

5. GL業績への影響について

バンコクの状況が山場を越えたとみられることから、現時点において、被害地域にあたるアユタヤ支店、同社本社における、直接的な人的・物的被害は極めて限定的であると判断しております。

GLはリースアップや、支払いが停止した場合の現物回収など日々、中古オートバイクを回収し、自社でオークションを行って、中古車業者へ販売をいたしております。このたび、バンコクでのオークションは取りやめましたが、タイ東北部のナコンラチャシマ支店において拡大してオークション実行いたしました。バンコクからタイ東北部へは現在も、迂回路を取れば通行可能であり、本社からもオートバイを移動させて売り出すことにしたものです。

これは、バンコクやタイ中央部において洪水の影響があり、中古車販売業者がすべて集まることのできるわけではないことに加え、東北地方において価格等が優位であることが確認されたためです。

今後とも、適切に状況を把握するとともに、全国にありますネットワークを活用し、適切に業務を遂行してまいります。

現在も顧客と逐次連絡を行うなど、状況把握に努めておりますが、大半の顧客とは携帯電話で連絡ができる状況にあります。顧客が支払う方法がないなどの事情に対しては柔軟に対応しております。

当社会長此下竜矢よりの報告

1. 都内各地では浸水する地域と、水が引き始めた地域が混在しております。また、すでに排水作業に取り掛かった場所も散見されております。
2. 都内は晴天が続いており、洪水対策に幸運をもたらしております。

3. また、タイのインフォーマルセクター（小規模な事業者などを指す。私は自著で草の根経済として紹介しております。）の活動が活発であり、食品、水、船、発泡スチロール、長靴、ライフジャケット、その他必需品を被災地周辺や都内に輸送し、路上などで次々に売り出しています。

私が買ったバナナはタイ中央部で最も早くに洪水被害にあったスコータイ県（タイ族が初めて王国を作ったことで知られ、世界遺産スコータイ遺跡がある。バンコクから北へ 430 キロ）から送られてきました。

「おじさん、これどこから持って来たの？」

「これ、スコータイからよ。」

「へー、どうやって来たの？洪水してるだろ？」

「おー、そりゃ、ちょっと大回りしてきたのさ」



膝まで浸水したバンコクのある地域の小さな米穀店、道路よりも歩道が高く、さらに一段、店が高くなっているため店は浸水していません。目の前の道路は運河のようになっていましたが、オートバイ、ピックアップ、歩行者が行きかいます。米屋の女主人に話しかけました。

「お米、まだ来てるの？」

「来てる、来てる、問題ないよ」

「洪水していないの？」

「あー、あっちのほうは全然してないよ。いつも通り送られてくるよ」

「水出てるけど大丈夫？」

「多いねー、でも毎年増水すんのさ、この辺は。なーに大したことはないよ（マイペンライ）」

路上ににわかに連なった店は、タイの中央部、東北部、東部、南部とほとんどの地方を確認しました。一番遠いところではバンコクから 780 キロ離れた南の県ナコンシータマラートからのボート売りでした。



浸水し、首まで浸かって歩いている住宅街の近くの高台では、早速オートバイ屋台が出動し、にわかに市場を作り出しました。タイのインフォーマルセクター、草の根経済はたくましさを失っていないようです。これらのインフォーマルセクターにとってオートバイは基本的なインフラとなっています。

すでに山場は乗り切ったとの観測もありますが、楽観視せず、被害の最小化と社業の発展に尽力してまいります。新たな情報等がありましたら、投資家の皆様、市場関係者の皆様、その他の関係者の皆様にご報告申し上げます。

なお、先日から掲載している写真につきましては、すべて当社会長の此下竜矢が現地にて撮影したものです。

以上